

燦々

SANSAN
光り輝く

謹賀新年



特集 第31回JA北海道大会
将来のビジョン「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」
～ひとを育み、ひとと歩む～

女性の集い参加者で一枚

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.265



編集・発行

〒059-1603
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-27-2241
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2
FAX 0145-27-3941

令和6年12月10日
ホームページ <http://www.ja-tomakomaikouiki.com>
メールアドレス info@ja-tomakomaikouiki.com

印刷 株式会社須田製版

JAバンク Winter Savings Campaign 2024

冬の貯金

キャンペーン

令和6年12/2月
～令和7年1/31金

組合員の方または新たに組合員加入いただける方

スーパー定期貯金

20万円以上の新規または純増(自動継続)

1年定期	0.175%	3年定期	0.200%
(2024年8月26日時点の店頭金利0.125%)		(2024年8月26日時点の店頭金利0.150%)	

他銀行等からの新規預け入れ金額が300万円以上で

広域産新米 5kg

(お一人様1回限) **プレゼント**

- お米プレゼントのみ、他銀行等からの新たなお預入れ資金とします。
- 自動継続後の適用金利は、自動継続日における店頭表示金利となります。
- ATM、ネットバンクでのお預入れは対象外となります。
- お利息には20.315%(国税15.315%、地方税5%)の源泉分離課税が適用されます。(マル優を除く)
- やむを得ず中途解約された場合は、当JA所定の中途解約利率が適用されます。
- 組合員加入をお申込みいただける方は、当JA地区内に住所を有する個人、または勤務先が当JA地区内の方となります。
- 組合員加入お申込に際しては、1口1,000円以上の出資金をお預かりいたします。

JAとまこまい広域

ホームページ <http://www.ja-tomakomaikouiki.com/>

苫小牧支所 ☎0144-84-5117	早来支所 ☎0145-22-2525
厚真支所 ☎0145-27-2241	追分支所 ☎0145-25-2525
白老支所 ☎0144-82-2266	穂別支所 ☎0145-45-2211

迎春



本年も宜しくお願ひ申し上げます。

とまこまい広域農業協同組合 代表理事組合長 堀 弘幸



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。世界の食糧需給は、国際紛争によって輸出制限を行い、食料不足問題など食料争奪戦が既に始まっております。また昨年、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、現状に即した基本理念の見直しと、「食料安全保障の抜本的な強化」「環境と調和のとれた産業への転換等の実現が盛り込まれました。このような厳しい時代だからこそ、国民が必ずとし消費する食料はできるだけその国で生産する「国産国産」が、消費者に知って頂きたい大切なテーマであります。

昨年を振り返りますと、春先は天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも

早く進んでおりました。農作業は順調に進み穏やかに経過しておりましたが、昨年の猛暑から一部の種子に影響が出た事や8月27日の集中豪雨により、厚真・穂別支所では農作物・ほ場等に被害が発生しました。水稲の作況指数は胆振・日高102の「やや良」と前年並みの収量でしたが、米不足騒動から米価は過去にない高騰をみせ、次年度以降の消費・価格動向が心配されています。畑作では、小麦・大豆は収量・品質とも良好でしたが、てんさいは収量・糖分とも平年作を見込んでいます。そ菜園芸部門では、収量は平年作を見込んでいますが、南瓜・メロンなどを中心に高値で取引され、計画対比110%となる23億円と過去最高を見込んでいます。和牛素牛は枝肉需要の回復が見えない中、更に価格が下落し続けており非常に厳しい状況となっております。豚枝肉価格は、昨年に引き続き国際情勢と記録的な猛暑により出回り量が減少し高値で推移しました。生乳は期中に価格改定が行われましたが、長引く飼料高騰と初生牛価格の低迷により、引き続き経営に影響を受けた年となりました。JAの農畜産物の対策費を含んだ販売額は計画比106%、前年対比104%の146億円を見込んでおりますが、農家所得は肥料を始め資材費の高騰で厳しい年となりました。経営に大きく影響を受けた組合員の皆様には長期低利資金の用意と肉牛経営緊急支援対策を講じて参ります。

昨年7月の第44回北海道花卉品評会切り花の部では、厚真の斉藤仁さんが農林水産大臣賞を受賞、10月には厚真産ハスカップが地域団体商標を取得しました。また、ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会においては(有)エー・イー・シーが後代検定の部で最優秀賞を受賞、日胆黒毛和種枝肉共励会においては白老の合同会社いわさきファームが優秀賞1席を受賞し地域の誇りとなっております。

世界の金融情勢は大きく変化する中で市中金利は上昇傾向となっておりますが信用共済事業の収益は厳しい状況が続いています。事業推進体制の効率化と農業生産現場の生産性向上や財務基盤の強化が重要な課題となっております。昨年、6月には組合員の利便性向上を図る上で早来支所のワンフロア化を進め、11月には地域の理解を頂きながら、追分生産資材店の季節店舗化となりました。また、加工馬鈴薯面積増加に対応すべく、安平町のご支援を頂きながら追分支所に多目的倉庫と、昨年4月に火災で焼失した穂別資材倉庫が本年早々に完成予定となっております。本年、たんとう米ステーションの機能向上を図る工事を厚真町のご支援を頂きながら実施する事となっております。

最後になりましたが、豊稔の秋を迎えられることを願ひ、あわせて皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



白老町長 大塩 英男

新年あけましておめでとうございます。

また、とまこまい広域農業協同組合の皆様におかれましては、日頃から本町の農業振興に対し、格別なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、町制施行と併せ、島根県から和牛を導入し70年という記念すべき節目の年に、本町を代表する白老牛肉まつりを5年ぶりに開催することができました。

あらためて、先人の多大なるご尽力とご苦勞に感謝するとともに、これまで築かれたまつりの更なる発展に向け、邁進する所存であります。

また、農業情勢に目を向けますと、国際情勢に起因した燃油・資材等の高騰やコロナ禍以降続く牛肉の消費低迷等、農業者の皆様においては依然として厳しい状況が続いていることと存じます。

本町としましては、「持続可能な農業基盤の構築」に向けた適切な支援の推進について、誠心誠意努めてまいります。

結びになりますが、組合員の皆様とご家族一同様のご多幸、ご健勝をご祈念申し上げ、年頭のあいさついたします。



苫小牧市長 金澤 俊

新年あけましておめでとうございます。

とまこまい広域農業協同組合の組合員・役職員の皆様におかれましては、日頃より市政に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の農畜産物につきましては、春から高温状態が続き、平年値自体が高くなったものの、夏頃に高温多照に恵まれたことにより生育が進んだ結果、品目によっては昨年を上回るなど全体としては平年並み以上の出来秋を迎えられたことをご喜び申し上げます。しかしながら、昨今の農業を取り巻く情勢は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで社会経済活動の正常化による需要増加が見込まれましたが、長引く物価高騰に加え「2024年問題」による運送費等に係るコストが増加となるため、依然として農業経営は厳しい状態にあります。

一方、「食料・農業・農村基本法」が25年振りに改正され、食料安全保障の確保及び農業の持続的な発展等を図るとされており、これを実現するため、本市としては貴組合をはじめとする農業機関との連携をより密にして参る必要があると考えております。

貴組合におかれましては、引き続き地域産業の発展及び農業従事者の皆様を守ることを第一に取り組んでいただきますとともに、農業を通じた地域社会構築に御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、貴組合の今後益々の御発展と組合員皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、新年の御挨拶いたします。



安平町長 及川 秀一郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、平素より町政全般にわたり、温かいご支援とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の農業状況を振り返りますと、気温の高さが続いたものの、心配された猛暑の影響は少なく、概ね良好な作柄であったのではないかと思います。その一方で農業生産資材の価格については、一時の高値からは落ち着きを見せたものの、依然として高止まりが続いており、難しい経営を余儀なくされていることと思ひます。

このような中、貴組合により加工用馬鈴薯倉庫が建設されましたので、地域の新たな取り組みとして、さらなる作付面積の拡大を期待しているところであります。昨年は、米の品薄による価格の高騰が話題になりましたが、農作物の値上げは消費者にとっては苦しい反面、生産者が将来に渡って農業を続けていくためには、生産費の上昇を反映した適切な値付けが求められていると思ひます。

新たな局面を迎えているこのような時代だからこそ、時代に合わせた新しい取り組みが必要だと考えていますので、本年につきましても引き続き農業情勢を注視し、皆様が安心して営農を継続できるよう関係機関と連絡を密にして対応して参ります。

貴組合におかれましては、組合員の皆様と一丸となつてこの難局を乗り越えられますようご期待申し上げます、年頭のご挨拶いたします。



厚真町長
宮坂 尚市朗

新年明けましておめでとうございます。組合員、役員としてご家族の皆さまには、希望に満ちた輝かしい2025年の新春を穏やかに迎えることと心からお慶び申し上げます。また、日頃より町政にお応えのことと心からご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。改めて、昨年、11月7日に急逝された宮田前組合長のご冥福をお祈り申し上げます。組合員の皆さまにはご遺志を引き継ぎ、堀組合長を中核として結集し、地域振興のために引き続きのご努力をお願いいたします。

昨年は、作況が「やや良」と豊稔の出来秋を迎えることができました。組合員の皆さまの努力の賜物と改めて敬意を表します。農作物の販売は回復傾向に向かっていますが、燃油、肥料、飼料等の資材の価格は高止まりしており農業経営への不安は拭えない状況が続いています。厚真町独自に令和3年度に開始した農業生産費高騰対策事業を令和6年度まで延長し、農業経営の支援を実施しておりますが、持続可能な農業経営には流通と生産の両面における構造改革が喫緊の課題であると考えています。平成13年度に上野地区に建築した厚真町穀類乾燥調製施設についても築23年が経過して老朽化しており、たんとまの品質向上と産地競争力の強化を目指して、必要な設備を更新してまいります。

厚真町においては、これまで30年近くにわたり厚幌ダム建設に国営かんがい排水事業、そして道営ほ場整備事業と総事業費で1千億円を超える生産基盤整備に取り組みまいりました。令和6年度に着工した上鹿沼第1地区の道営ほ場整備事業の工事も順調に進捗しています。また平成13年度に事業着手し令和6年度に完了を迎える、国営かんがい排水事業勇払東部地区の完工式を今年3月に迎えます。厚真町は水田の高度利用を図りながら胆振の穀倉地帯としての地歩を築き上げてまいりました。国は、国際情勢に依存する麦・大豆の国産化を推進しており、厚真町においてもこれらの戦略作物の産地形成を目指し汎用性の高い生産地帯の堅持を基本として参ります。

組合員の皆さまにおかれましては、激動する農業情勢にあつて、経営基盤の更なる強化に向けてより一層J.A.とまこまい広域に結集し、引き続き協同の力を存分に発揮下さるようお願い申し上げます。結び、貴J.A.の益々のご発展、今年1年の組合員並びに役員皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。



むかわ町長
竹中 喜之

新年明けましておめでとうございます。とまこまい広域農業協同組合の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃から本町の農業振興に対し格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、近年は全国各地で天変地異に見舞われるなか、本町におきましても大変に厳しい状況でありましたが、昨年の作物は全般的に品質もよく、豊稔の出来秋を迎えることができましたことは、組合員の皆様の努力の賜物であり改めて感謝と敬意を表するところであります。

しかし、農業を取り巻く情勢は、農業生産資材の物価高騰が続くなか、農業経営を逼迫し、依然として厳しい状況が続いており、水田活用直接支払交付金の見直しについては、一昨年同様、緊急対策として、水田機能の維持・補修に対し支援するための水田農業緊急対策交付金事業に取り組み、安心して営農をしていただけるよう、本年も継続し実施して参ります。

こうしたなか、国は昨年6月5日に、四半世紀ぶりとなる「食料・農業・農村基本法」の改正を行い、世界の食糧需給の変動や地球温暖化、農業及び農村をめぐる諸情勢の変化に対応し、食料安全保障の確保を始め、環境と調和のとれた食料システムの確立や農業の持続的な発展のための生産性の向上、農村における地域社会の維持を図ることとしており、食糧供給地域としての北海道の役割と期待は、ますます大きくなっていきます。

町行政と致しましても、引き続き、安心して安全な営農をしていただけるよう、関係機関団体の皆様のお力添えをいただき、持続可能な農業振興の推進に努めて参りますので組合員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結び、とまこまい広域農業協同組合の益々のご発展と組合員並びにご家族の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしました。新年のご挨拶とさせていただきます。



J.A.とまこまい広域
青年部部长
石田 拓矢

新年あけましておめでとうございます！

旧年中はJ.A.青年部の活動にたくさんのご支援をいただき、ありがとうございました。昨年は久しぶりに道外視察研修を実施し、他地域の先進的な取り組みや新しいアイデアに触れる貴重な機会となりました。コロナの影響でしばらく実現できなかっただけに、今回の研修が再び実施できたことを大変嬉しく思っています。この経験を糧に、地域農業の発展にさらに貢献していけるよう努めてまいります。

本年も、青年部全員で力を合わせて頑張つてまいりますので、引き続き温かいご支援とご指導をいただければ幸いです。皆さまにとって健康で実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



謹んで新年のお慶びを申し上げます。
J.A.とまこまい広域青年部

- 部長 石田 拓矢
副部长 小西 勇生
副部长 安井進乃輔
副部长 末政 知和
副部长 上村 将兵



J.A.とまこまい広域
女性部部长
高林 清美

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

今年も皆様におかれましては輝かしい年を迎えられていることかと存じます。昨年も11月に「女性の集い」を開催させていただきました。また、12月にはJ.A.日胆地区の行事としてコロナ禍明け始めて一泊での女性部研修会が開催され、当女性部から役員・事務局の皆さん総勢32名で洞爺湖万世閣へ赴き、楽しい時間を過ごしてまいりました。今年につきましても、女性部員として資質向上を目指し良き活動、良き思い出ができるよう部員と連携をとっていかれたらと思います。

昨今の異常気象、物価高騰と様々な異変が多く心配な日々が続いておりますが、それに負けず健康に留意し、今まで以上に情報交換の場としての女性部活動にしていきたいと思っております。

今後とも組合員・J.A.役員および関係機関のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
J.A.とまこまい広域女性部

- 部長 高林 清美
副部长 友広 由加
理事 竹田 照美
理事 溝口 千晴
理事 秋永 晴美
理事 中澤 珠美



胆振農業改良普及センター
東胆振支所支所長
佐藤 元紀

新年、あけましておめでとうございます。また、日頃より、普及事業にご理解ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年は、農作物に障害が発生するほどの高温ではありませんでした。平均気温や積算気温では、一昨年並の高温で推移しました。多くの作物では生育が前進化され、管理に苦勞された年だったと思います。水稲では、収量がやや良(作況指数1.03)となり、畑作物では、ほぼ例年並みでしたが麦類では多収となりました。

また、病害虫は、てんさい褐斑病やシロオビノメイガ、マメノメイガの発生は見られましたが目立った被害はありませんでした。

気象変動は今後も十分に懸念されますので、気象条件にあった栽培方法を皆様と共に模索しながら高品質・安定生産に向けて、努力していきたいと考えています。

農業を取り巻く情勢は、年々厳しさを増し、肥料・飼料・資材や燃油・電気料金の高騰、気象変動対策など、毎年変わる農業情勢に対して農業経営の健全化が大きなウエイトとなってきます。

普及センターも農業者の皆様へ寄り添いながらご支援が出来るように考えておりますので、よろしくお願いたします。

結びになりますが、貴組合の益々のご発展と組合員並びに役員皆様のご健勝とご多幸とを心から祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

とまこまい広域農業協同組合

Table with 2 columns: Position (e.g., Representative Director, Chairman) and Name (e.g., Hiroshi Ishida, Kiyomi Takahashi).

No.265 CONTENTS

- 01 新年のご挨拶
 - 05 特集 第31回JA北海道大会 将来のビジョン
「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」
～ひとを育み、ひとと歩む～
 - 07 カメラレポート
 - 11 農業労災へ加入しましょう!
 - 12 令和6年度 販売取扱実績
 - 13 令和6年度 役員道外研修
 - 14 JAグループ北海道の農政活動強化に向けて
第3回「東野ひでき北海道後援会」の取組み
 - 15 理事会報告
 - 16 ワンポイント農情情報
 - 17 ・年末・年始の営業時間一覧表
・JAからのお知らせ
 - 18 ・期待の農力 令和6年度総集編
・JA日誌
- 裏表紙 冬の貯金キャンペーン



第19回JAとまごまい広域女性部「女性の集い」が11月22日に開催され、各支部の女性部員が一堂に会し交流を深めたほか、「もっと私の農業」というテーマにグループディスカッションを行った。

読者の皆様へ1月発行のお休みのお知らせ
いつも「燦々」をご愛読くださり心よりお礼申し上げます。
今号は12月・1月合併号としてお届けしており、1月発行号はお休みさせていただきます。
次号は2月発行号となります。



▲北海道大会に参加した常勤役員ら

【大会議案】

- 議案第1号 食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立
- 基本目標1 農地の確保と適正利用の強化による農業生産の展開
 - 基本目標2 需要が期待される食料・自給飼料などの安定生産・供給と農業における環境負荷低減の両立
 - 基本目標3 食料供給基地を担うにふさわしい農業所得の安定確保
 - 基本目標4 組合員の意思結集による農政運動の展開強化
- 議案第2号 JAの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立
- 基本目標1 協同組合理念の次世代への継承
 - 基本目標2 持続可能なJA経営基盤の確立に向けた経営管理・経営統制の構築
 - 基本目標3 デジタル技術を活用した業務の効率化・生産性向上の追求
 - 基本目標4 事業継続に必要な人材の確保と定着化
 - 基本目標5 連合会の横断的な事業展開
- 議案第3号 農業・食・JAへの理解醸成
- 基本目標1 アグリアクションによる農業・食・JAへの理解醸成
 - 基本目標2 食農教育の強化・充実による農業・食への理解醸成
 - 基本目標3 地域貢献活動の実践によるJAへの理解醸成

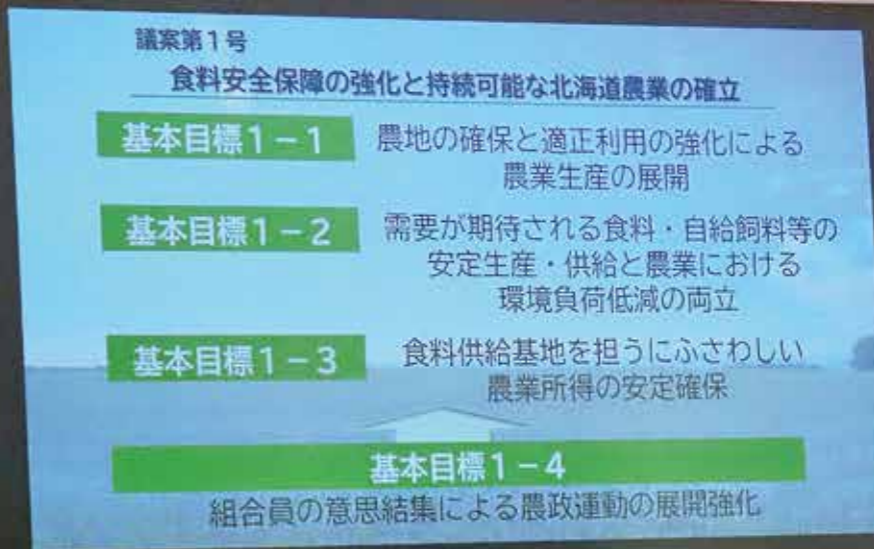
今大会で掲げた将来ビジョンは「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に向けて、重点的に取り組む事項について各JAから意見を踏まえ3議案にまとめた。大会の議長はJAみついしの澤田祐喜組合長が務め、大会議案は各連合会から上程。JA当麻の福井幸司組合長、JA道青協の三角将広副会長、JA道女性協の佐武敏子副会長がそれぞれ意見を表明した。

大会では議案審議のほかに、東京農業大学総合研究所の末松広行特命教授を招き「新たな食料・農業・農村基本法における北海道農業の目指すべき方向」と題し、世界の食料事業から日本の食料安全保障と農協の役割など多岐に渡り講演が行われた。

また来年夏の参議院比例区において同グループからの選出候補となっている、東野秀樹氏を励ます会(主催:東野ひでき北海道後援会)が同大会に合わせて開かれ、JA道各地から集結したJA関係者からの頑張ろう三唱で一致団結を図った。

第31回 JA北海道大会

「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」～ひとを育み、ひとと歩む～



▲北海道大会で意見表明する様子

JAグループ北海道は11月20日、第31回JA北海道大会を札幌コンベンションセンターで開催し、JAや連合会、青年部、女性部などオンライン参加も含めて総勢約3,000人が参加した。当JAからは、堀組合長、石橋専務をはじめ役員、青年部員、女性部など18人が出席。

2025年～2030年の6年間の将来のビジョンの実現に向けた食料安全保障の強化、持続可能な北海道農業やJAの組織基盤の確立、農業・食・JAへの理解醸成といった3つの議案を採択した。

同大会は、組織、事業の強化を図るべく、各組織のリーダーが一堂に会して、組合員・JA等との十分な討議を通じて策定した同グループの基本方針を確認することを目的に3力年ごとに開催される。今回の第31回大会は、食料安全保障の強化と農業所得の確保、農業分野における環境負荷低減への対応、人口減少による人材確保など、農業・JAを取り巻く環境や今後の展望を踏まえ、同グループが一丸となって実践すべき事項に焦点を絞り議案を設定した。

大会実行委員長を務めたJA北海道中央会の樽井功会長は「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立に向け、生産現場の行動変容を加速させる必要がある」と話した。また鈴木直道北海道知事も出席し、北海道が日本の食料供給に果たす役割の大きさを強調。皆が希望を持って営農を続けられるようJAと連携して取り組みを前に進めたいと話した。

第31回JA北海道大会
将来のビジョン「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」
ひとを育み、ひとと歩む

地域話題をパチリと

広域

これからの抱負を語る

新組合長・新専務就任挨拶

この度、令和6年10月27日に逝去した宮田広幸前代表理事組合長に代わる執行体制について11月7日に開催した第11回理事会において決定しました。11月11日に職員に対し就任の挨拶がありましたのでご報告いたします。



堀 弘幸 新代表理事組合長 (前代表理事専務)

厚真地区担当理事には堀田昌意理事が就任いたしました。また穂別地区理事の欠員については、令和7年度通常総会にて補欠選任することとなりましたので、併せてご報告いたします。



石橋 公昭 新代表理事専務 (前厚真地区担当理事)

石橋公昭新専務は「私の座右の銘は『情けは人の為ならず』です。本当は『情けは他人のためでなく、自分自身のためにかけるものであり、やがて巡り巡って自分に返ってくる』という意味です。この精神は、相互扶助という協同組合の理念に通じるものであると考えています。」

この言葉には続きがあり「自分が他人にした良い事は忘れてもいい。他人から良くしてもらった事は絶対に忘れてはいけない」ということです。何かと農業情勢の厳しい時ではありますが、私はこのような気持ちを持って、これからも組合員のために、そして職員の皆さんのために努力していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします」と挨拶した。



広域

後代検定の部で最優秀賞の快挙達成 今後の後代検定成績に期待

令和6年度 ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会

帯広市の北海道畜産公社十勝工場にて10月5日に令和6年度ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会(出品数83頭)が開催され、有限会社イー・シーが後代検定の部において最優秀賞の栄誉に輝いた。同社は昨年に引き続き2年連続の受賞となった。また、フリーディング白老牧場が同部で優良賞を受賞した。

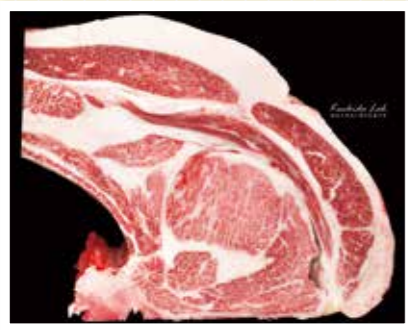
後代検定の部最優秀賞を受賞した有限会社イー・シーの橋靖司牧場長は、出荷前の生体は「肋張りがよく中軀の幅と深みに富んだ体型に仕上がった」と目を細め、受賞については「日頃の飼養管理の成果であり、牧場で造成した種雄牛が最優秀賞を受賞した事は牧場で働く4人

の喜びもひとしおです」と笑顔で答えた。

父牛の「北雪栄」は同社で造成したジェネティクス北海道候補種雄牛であり、共励会の他にも3頭出荷している、枝肉重量に富み格付けは全て5等級であったため、橋牧場長は今後の現場後代検定成績に期待を寄せる。



▲受賞式 (有)イー・シー池川茂雄氏(写真提供:(一社)ジェネティクス北海道)



▲第21回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会 後代検定牛の部 最優秀賞 (写真提供:(一社)ジェネティクス北海道)

入賞一覧 ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会 後代検定の部

順位	支所	氏名	性別	枝肉重量	BMS	血統
最優秀賞	苫小牧支所	(有)イー・シー	雌	534kg	12	北雪栄×清勝正×北斗王
優良賞	白老支所	(有)フリーディング白老牧場	雌	433kg	11	北朱音×安福久×平茂勝

広域

「もっと私の農業」と題し、グループワーク

J Aとまごまい広域女性部「女性の集い」開催

J Aとまごまい広域女性部は11月22日、厚真町総合福祉センターにて「女性の集い」を開催し約60名が参加した。震災やコロナ禍での中止を挟みながら今年で開催19回目を迎える。同事業は女性部活動の一環として合併後に開催され、支部内・支部間での融和と部員相互の親睦を目的に実施している。

開会に当たり高林清美女性部長は「今までからこれからの農業を語りたい」との思いから、テーマを「もっと私の農業」としてグループディスカッションをさせていただきます。皆さんが今感じていることをお話しいただき、これからの繋がる時間になればと思います」と挨拶した。来賓挨拶で堀弘幸組合長は「農業者が



▲グループディスカッションでそれぞれの営農について話し合う様子

減少していく。現在、J Aは農業生産と地域の生活を守り育てる欠かせない組織です。これからのJ Aは農産物などの販売だけでなく、地域の生活を担う必要があります。そのためには、令和8年度からは非とも女性の理事を選出して頂きたいと思っておりますので、J Aのそして地域の活性化のためにお力をお貸しただければと思います」と述べた。

グループディスカッションでは、自身の農業について報告の中で昨今の生産資材費の高騰や家庭内での意思疎通や役割意識を持つ大切さなど、それぞれが抱える考えなどの意見交換が行われた。昼食後には各支部が持ち寄った景品でジャンケン大会が行われ大いに盛り上がり、盛會裏に女性の集いは終了した。



▲景品をかけたジャンケン大会の様子

早来

「土壌の基礎を学ぶ」

J Aとまごまい広域青年部早来支部事業「勉強会」

11月29日(金)、J Aとまごまい広域青年部早来支部(支部長 宮本悠輝氏)は、とまごまい広域農業協同組合早来支所の2階会議室にて、本所営農部クリン農業係を講師に招き、「勉強会」を開催した。

開会にあたり、宮本支部長は「土壌について学びを深める貴重な機会ですので、有意義な勉強会にしましょう」と挨拶した。

勉強会では、営農部の上田課長補佐から安平地区の特徴や基礎知識等、土壌について資料・パワーポイントを用いて説



▲講師の上田課長補佐

明され、土壌診断の意義と土づくりに向けた基礎知識についてを細かく丁寧に指導された。

部員は、「漠然としていた単語の意味や土壌についての基本的な知識を学べて良かった。今回は基本である土壌改良や耕起について知れたが、もっと詳しく話を聞き応用も学びたいので、また開催してほしい」と話した。また、熱心に質問する様子が見られ、部員の意欲が感じられる講習会となった。



▲真剣に聞く部員の様子



地域話題を
パチリと

追分

参加者は理解を深める

令和6年度 クミカン制度 税務申告講習会開催

11月12日、追分支所2階会議室にて、クミカン制度・税務申告講習会が開催された。この講習会は安平町新規就農者実践農場での研修又は研修を終え独立した農業者や後継者の方々を対象にJAの営農計画書とクミカン制度、税務申告の理解を深めるため開催された。



▲講義の様子①

また組合員勤定制度、通称「クミカン」制度の講習も行われ、「クミカン」制度の成り立ち・目的・仕組み、JA事業との関係性などの説明があり、講習者の中には現在クミカンを利用していない組合員もいたことから、多くの質問が飛び交っていた。



▲講義の様子②



追分

地元農家の排出物処理を手伝う

青年部追分支部廃プラ回収事業

日増しに寒さが身に染みるようになった11月13日、青年部追分支部による廃プラ回収事業が行われた。この事業は、依頼のあった農家を回り、あらかじめポリとビニールに分けられた廃棄物をダンブで回収し、運搬する青年部事業で、毎年この時期に行っている。高齢化により廃棄物を運べない、量が多くて運び切れない等、なかなか運搬できない農家の手助けになれるよう取り組んできた。



▲回収作業の様子



▲積み込みの様子

農家に出向き、行く先々で、手積みやトラクタを使つての積み込みと作業方法が異なるが、皆真剣な表情で作業に取り組んでいた。

厚真

厚真町をPR
商工会・漁協・農協の青年部が

くるるの杜であつまつ特産市開催

JAとまこまい広域青年部厚真支部（高橋健太支部長）は10月26日、北広島市のホクレンくるるの杜にてあつまつ新鮮組（厚真町内の商工会・漁協・農協の各青年部による連絡協議会）主催による「あつまつ特産市」に参加した。当日は各団体より18名が参加し厚真町のPRを行った。



▲今摺米の量り売り



▲各青年部が集結した

ホタ木、JA女性部手作りの「おふくろなんばんみそ」などの特産品を販売した。メイン企画である「今摺米」コーナーでは、目の前で玄米を精米し、枡のすくい取りによる量り売りを実施した。精米したての新米を求めて多くの方が足を運び、青年部員によるサービスもあり購入した方はそれぞれ満足そうにしていた。



穂別

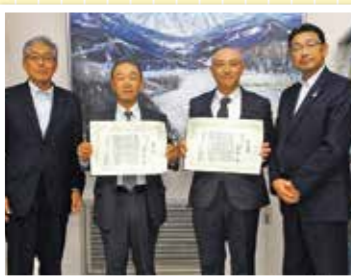
むかわ町穂別地区の石崎憲一さん、
菊地英智さんが優秀表彰を受賞

令和6年度「ゆめびりかの匠」表彰式

むかわ町穂別地区の石崎憲一さん（49歳）と菊地英智さん（63歳）が11月21日に札幌市で開催された令和6年度「ゆめびりかの匠」表彰式に出席し、優秀表彰を受賞した。



▲令和6年度「ゆめびりかの匠」表彰式 受賞者の皆さん



▲受賞の報告を受け、堀組組合長が激励を述べた

優秀表彰を受賞した菊地さんは「このような栄誉ある賞をいただくことが出来て、誠に光栄に思います。これはもちろん、農協を始め、普及所などの関係機関あつての受賞です。本当にありがとうございます」と感謝を述べた。

最後に、これからの農業経営について石崎さんは「基本技術を大切にしつつ、新しい技術や情報を取り入れながら継続して、高収量・高品質の維持を目指していきたい。また、ここ近年、高齢化などで離農者が増えている中、担い手が減少している。それが原因で遊休農地が増えるのであれば、地域農業を守るために、その農地を引き受けることで、産地の生産量を維持・発展させ、これからも家族一丸となって頑張っていきたい」と今後の抱負を語った。

令和6年度 販売取扱実績

(金額単位:千円)

品目	計 画		10月末実績		進 捗 率	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
米	200,946俵	2,537,031	11,175俵	205,689	5.6%	8.1%
小麦	6,267 t	351,023	6,329 t	334,942	101.0%	95.4%
大豆	42,379俵	380,208	1,510俵	92,806	3.6%	24.4%
小豆	12,097俵	301,330	5,671俵	159,275	46.9%	52.9%
てん菜	26,728 t	331,594	0 t	17,324	0.0%	5.2%
雑穀	3,844俵	18,814	29俵	302	0.8%	1.6%
メロン	693 t	403,356	692 t	422,403	99.9%	104.7%
南瓜	6,335 t	635,458	4,552 t	679,626	71.9%	107.0%
ほうれん草	94 t	76,737	78 t	69,120	83.1%	90.1%
長いも	431 t	87,759	36 t	6,943	8.4%	7.9%
馬鈴薯	1,541 t	138,250	565 t	88,181	36.6%	63.8%
ブロッコリー	161 t	80,340	153 t	80,940	94.7%	100.7%
花卉類	1,281t	103,000	1,148t	96,927	89.6%	94.1%
生乳	13,391 t	1,540,040	8,606 t	978,319	64.3%	63.5%
乳用牛個体	501頭	197,710	370頭	133,918	73.9%	67.7%
和牛(肉用牛)	4,277頭	2,708,340	3,101頭	1,877,928	72.5%	69.3%
肉豚	29,710頭	1,348,761	21,066頭	1,043,636	70.9%	77.4%

●農産

【水 稲】育苗期間中は全体的に高温傾向で推移し、出芽が良好であった。一方、苗の軟弱徒長が散見され、乾物重は軽くなった。移植作業は概ね順調に進んだが、5月4半旬から6月2半旬にかけて寡照で推移したため、植傷みが発生し、分けつ始は6月11日(遅1日)となった。6月3半旬以降は高温・多照で推移し、7月1日時点のm茎数は平年並、幼穂形成期は7月2日(早3日)となった。幼穂形成期以降も高温・多照で生育は進み、止葉期が7月17日(早5日)、出穂期が7月24日(早6日)となった。冷害危険期は平年より高い気温で推移したため稔実歩合はやや良となった。8月後半の降雨により倒伏したほ場が散見された。登熟期間においては平均気温・夜温は昨年より低く推移したが、一部乳白・腹白粒・茶米が一部散見された。また、タンパク含有率は高い傾向にある。病害虫は、いもち病・疑似紋枯病の発生量は平年並、カメムシは初発が早く発生量も多かったが斑点米は少なかった。9/25現在の作況は、全国102、北海道103、胆振102と発表された。現在、R5年産米から6年産新米への切替えが進んでおり高い水準の販売環境となっている。国は、7年産米の生産の見通しを6年産と同水準とすることとした。

【小 麦】令和6年産のは種作業は、断続的な降雨があったため平年よりやや遅くなった。その後気温が高く推移し、茎数、草丈など生育は良好で越冬前の生育量は確保された。降雪が少なく、気温が温暖に経過したことも重なり速いペースで融雪が進んだが、2月上旬から3月上旬にかけて降雪を伴う急激な気温の低下があり融雪はやや遅くなった。多量の降雪と融雪を繰り返した事から土壌凍結が見られたほ場は少なく、凍上害および雪腐病の発生は見られなかった。4月以降は温暖に経過し、幼穂形成期は早4日、出穂期は早5日、成熟期は早6日で推移した。登熟期間は44日となり平年並であった。成熟が早まり収穫は平年より6日早く終了した。平年と比較して稈長はやや長く、穂数はやや多く、穂長は平年並となった。

令和6年産小麦は、収量・品質においては、昨年を上回る内容となった。依然として道産麦各銘柄の需給ミスマッチ(生産>需要)の状況となっているが、安定収量・安定品質が求められている。

【大 豆】は種は、最盛期で平年並の5月21日であった。出芽期も平年並の5月29日となり、6月中旬以降の高温多照および適度な降雨により生育が進んだ。開花期は平年に比べ3日早く、9月1日時点で生育は平年より4日早く進んでいる。平年に比べて草丈は短く、着莢数はやや多い。年々マメシンクイガの発生時期が早まっているが、平年と比較して飛来頭数はやや少かった。収穫始は平年より4日早い10月12日となった。

令和5年北海道産大豆は、全道的に品位の低下が見られ、販売単価も低調、現在の道産の販売進捗は88%(前年同月97%)となっている。6年産大豆は、荷受原料から確認すると例年通りの品位を確保できる見通し。

【小 豆】は種は、最盛期で平年並の5月26日だった。出芽期も平年並の6月7日だった。6月中旬以降は高温・多照により生育が進み、開花期は平年より4日早い7月17日だった。9月1日時点で生育は平年より4日早い、徒長傾向のため一部倒伏が散見される。平年と比較して、草丈は長く、着莢数はやや少ない。昨年と同様で高温の影響により莢先熟となり、葉落ちも悪く収穫が遅れ、平年より10日遅い10月13日に収穫を終えた。昨年多発したマメノメイガの発生量は平年並であった。北海道の令和6年産小豆類の面積は、昨年より微増に加え反収も良好の様子。輸入小豆の在庫は潤沢である。道産需要はあるものの、物価高による嗜好品の減少による実需使用量も減少がみられ、次期繰越量は微増の見込み。

【てん菜】は種は、最盛期で5月3日だった。出芽期も平年並の5月15日で、出芽は概ね順調だった。5月下旬から6月上旬にかけての強風、日照不足、少雨により初期生育は緩慢となったが、6月中旬以降は高温・多照により生育が進んだ。また、7月下旬の降雨により根部肥大が進み、根周りは平年並となった。6月3半旬からシロオビノメイガの食害、7月3半旬からは褐斑病の初発が散見され、発生量はやや多い傾向にあった。11月5日から輸送開始し、北海道糖業(株)の収量予測では平年並を予想している。

●そ菜

そ菜園芸は、南瓜・馬鈴薯等豊作傾向となり、南瓜の価格はシーズンを通し安定してやや高く推移しました。馬鈴薯においても9月上旬まで高値が続きやや高くなりました。ブロッコリーは高温ではありましたが、病害虫の影響も少なく計画通りの出荷となりました。ハスカップは、着果のバラツキにより減収となり、出荷量は激減しました。花きは、高温の影響により前進開花となり草丈が短く花付きも悪く品質低下となりました。

●畜産

生乳取扱については、昨年の4月乳製品向け、8月飲用向け、12月にはバター生クリーム向け乳価が改定となったものの、全道的な生産抑制運動の影響や猛暑による生産量の落ち込み、分娩時期のスレなどから回復には至ってはいません。一方、乳牛の個体相場は依然として低迷しております。肉牛については総じて飼料、燃油等の高止まりに伴い肥育経営の圧迫、牛肉の消費動向も重なり全国的に素牛相場が下落している現況において計画未達を見込んでおります。肉豚については、輸入において現地価格の高騰、円安の影響で高値となっている事から輸入品が減少、一方で国内においての生産需給動向のバランスから強含みの相場展開となっている現状で計画達成を見込んでおります。

農業労災へ加入しましょう!!

農業労災は、療養・休業給付から遺族給付まで手厚い補償があります。

労働中や通勤中に事故に合ったとき、雇い主は労働者へ補償する社会的責任があります。労災は、労働者が通勤中や労働中に負傷したとき、労働者と家族に補償する国の制度です。また、農業では特別に、雇い主(経営者・家族)が加入することができます。

◆加入要件(雇用状況に応じて加入方法を選択)

■家族経営の場合(特定農作業従事者)

補償対象:事業主(経営者)と家族

加入要件:年間300万円以上の農産物販売額があるか、2ha以上の経営耕地面積をもつ

補償内容:5作業に限る(①動力をもつ機械作業 ②2m以上の高所作業 ③サイロ等酸欠の危険性のある作業 ④農薬の散布作業 ⑤家畜に接触する危険性のある作業)

■労働者を雇用する場合(中小事業主等)

補償対象:雇用労働者・事業主(経営者)と家族

加入要件:年間100日以上労働者を雇う

補償内容:農業に必要な作業(資金の借入など、事業主にしか出来ない作業を除く)

◆年間の労働保険料

■事業主と家族の労災保険料(日額3,500~25,000円の間で選択できます)

基礎給付日額 (日給賃金)①	保険料算定基礎額 (年間賃金)② ①×365日	1人あたり年間保険料(円)	
		特定農作業従事者 ②×(9/1000)	中小事業主等 ②×(13/1000)
25,000	9,125,000	82,125	118,625
20,000	7,300,000	65,700	94,900
18,000	6,570,000	59,130	85,410
14,000	5,110,000	45,990	66,430
10,000	3,650,000	32,850	47,450
8,000	2,920,000	26,280	37,960
6,000	2,190,000	19,710	28,470
3,500	1,277,500	11,493	16,601

■雇用労働者の労災保険料(農業関係は一律)

年間賃金総額の1.3%の金額(年間賃金総額が100万円なら保険料は13,000円)

※保険料は先払いし、雇用の実績に応じて翌年に追加納付または充当・返還となります

例)「特定農作業従事者」に加入しているけど、短期間だけ人を雇いたい場合

雇用労働者の保険だけを、中小事業主等で加入します。事業主と家族は特定農作業従事者の加入を継続(中小事業主へ切り替え)します。雇用労働者の保険料は、必ず雇う前に申請・納付しましょう。保険料は年内(4月1日~翌年3月31日)に支払う予定賃金の「1.3%」です。

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第3回「東野ひでき北海道後援会」の取組み

組織内候補者を擁立して臨んできた過去5回の参議院選挙比例区では、各組織等が精力的に取り組んだ結果、候補者は当選を果たしてきたものの、残念ながら選挙の度に大きく得票数を減らしております。

得票数減少の様々な要因はあるものの、前回選挙の総括では(ア)選挙の意義を組織構成員に伝え機運醸成する組織力の低下、(イ)世代交代や情報発信・接点等不足による候補者の認知度の低下、(ウ)職員、組合員や青年部・女性部盟友等への浸透・徹底不足、(エ)事務局体制の脆弱化等が主な要因としてあげられております。

こうした要因と危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが必要不可欠であります。農業・JAを取り巻く厳しい状況下において、JAグループ北海道の政策提案を実現し、組合員の営農と生活を守るためには政治力の強化が極めて重要であります。

今後、JA役職員、組合員、青年部・女性部盟友、関係団体など東野ひでき氏を応援する者の輪を広げていくために、「なかまづくり運動」をはじめ農政学習会の開催、SNSでの発信等を繰り広げてまいります。

ひできのなかまづくり運動

【ひ】…ひとりでも多く!

【で】…できることから!

【き】…きょうから始めよう!

各々が東野ひでき氏支援を依頼する「なかま」を確実に2名以上特定し、さらに、「なかま」1名につき、新たに2名以上の「なかま」を特定し、「なかま」を広げていきましょう。

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年夏頃まで連載いたします。次回(第4回)は、農政活動の仕組みについて紹介します。



東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから



東野ひでき北海道後援会

令和6年度役員道外研修

10月22日から24日までの3日間にわたり、JA役職員ら14名が役員道外研修を開催しました。本年は北関東・東北方面を訪問し、東日本大震災からの復興への取り組みやJAによる農作業受委託について研修を実施した。研修行程の中では、胆振東部地震発生時、厚真町のふるさと納税業務を引き受けて頂くなどの支援をいただいた茨城県境町へのお礼回りのほか、福島県の東日本大震災・原子力災害伝承館や宮城県の瑞巖寺などを見学し、研修を締めくくった。



▲役員道外視察研修集合写真

主な視察先

① (株)ひかりファーム常総

茨城県の南西部に位置しており、梨やメロンに白菜、ズッキーニなどの青果物を主力としている。管内においても高齢化や後継者不足を地域の課題としている中で、平成17年にJA出資型農業法人の「ひかりファーム常総」を設立し、耕作放棄地に繋がる農地の借受と農作業を行い、現在177haの農地に水稻、小麦、大豆などを耕作しているほか、15件程の作業受託も実施している。運営上の課題としては条件不良地への対応や点在する非効率的な農地、人材確保やその育成などとしている。



▲(株)ひかりファーム常総意見交換会

② シャインコースト(株)

東日本大震災によって誘発した原発災害の煽りを受け、区域内の酪農家も甚大な被害に見舞われた。復興の道半ばではあるが、官民が一体となり地域の営農再開に向けた大規模事業の取り組みを視察した。福島県浪江町では原発事故により約21千人の避難を余儀なくされ、かつて主力産品であった花卉・水田農業の復活を目指し、営農再開に向けた生産基盤の整備と強化が進められている。一方畜産業では震災前、酪農家32戸、肉牛農家63戸によって総計1,145頭が飼養されていたが、経営意欲が低下した農家が多く、現在1戸の経営再開に留まっている。このような中で浪江町は営農できる環境整備に向け、官民一体となったシャインコースト(株)を立ち上げ、生乳生産をはじめ、堆肥供給体制や研修・研究分野も取り入れた大規模酪農施設整備事業に取り組むこととしており、この復興牧場を拠点に地域再生に繋がることが望まれている。



▲シャインコースト(株)で建設中の施設の説明を受ける

③ 東日本大震災・原子力災害伝承館

東日本大震災による被災から復興までの記録を研修し、今後の防災・減災への資とした。伝承館では、震災発生時の生々しい様子や原発事故への緊迫した対応が残されるほか、そこに携わる貴重な備品などが展示されている。また、語り部の講和では、震災当時の不安や悲しみなどの想いに加えて、災害に対する備えや街の復興状況、その取り組み、未来に向けての想いなど、当時の経験に基づいた話を伺った。

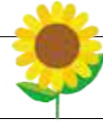


▲東日本大震災・原子力災害伝承館

ワンポイント営農情報



緑肥作物の栽培による効果



土づくりには、有機物の投入が重要となっています。特に、緑肥は堆肥の不足を補う有機物として積極的な導入が推進されています。緑肥には、土壌の団粒化や透水性の物理性の改善に効果があり、窒素の供給や有用微生物の増加にも効果が期待できます。主な緑肥の効果は、下記表を参考としてください。

緑肥名	効果								後作物の適否	
	有機物供給	窒素供給	菌根菌増加	物理性改善	透水性改善	土壌侵食防止	養分流亡防止	塩類集積改善	適作物	不適作物
えん麦	◎	○	○	○		○	○	○	豆類 馬鈴薯	小麦 根菜類野菜
トウモロコシ	◎		◎	◎	○	○	○	◎	豆類 小麦	てん菜 馬鈴薯 根菜類野菜
ソルガム	◎		○	◎	○	○	○	◎		
アカクローバ	○	◎	◎	○	○	◎			秋まき小麦 てん菜 野菜類	根菜類野菜
ヘアリーベッチ	○	◎	◎			○			てん菜 馬鈴薯 トウモロコシ 小麦	
シロカラシ	○	○		○		○	○	○	てん菜 馬鈴薯 小麦 菜豆	アブラナ科 野菜 根菜類野菜
ヒマワリ	◎		◎	◎	○	○	○	○	トウモロコシ 小麦	豆類 馬鈴薯 根菜類野菜

「北海道緑肥作物等栽培利用指針改定版(道農政部、2004)」から一部改変

シリーズNo.54 おいしい米づくり

令和6年の生育の特徴

水稻の生育は、活着時期を除き高温・多照に経過し、「ななつぼし」では、稈長は昨年よりやや長く、穂数確保は過去数値の中でも高いものとなり、やや大出来の姿となっていました。

「ゆめぴりか」も、稈長は昨年より長く、穂数確保も優っており、粒数確保は中庸な姿となりました。

しかし、農政事務所調査では製品歩留が直近年平均値よりやや低い傾向となり、早期倒伏や茎葉の早期黄化・枯れ上がりが玄米の仕上りに影響したものと考えられます。

高温年が続く中では、土壌診断結果等の具体的な数値に基づく肥培管理や登熟時期も稲が十分活動できることを意識したほ場管理が、良質米安定生産にはより重要になってきています。

表 JA全域調査の年次比較

年次	品種	成熟期調査					農政事務所 作況指数
		稈長 cm	穂数 本/m ²	着粒数 粒/一穂	不稔歩合	稈実粒数 粒/m ²	
R06	ななつぼし	74.4	541	65.2	4%	33,953	102
	ゆめぴりか	73.1	551	59.5	5%	31,119	
R05	ななつぼし	73.7	491	63.2	4%	29,928	104
	ゆめぴりか	71.2	515	56.5	4%	27,844	
R04	ななつぼし	78.6	489	71.6	8%	32,178	105
	ゆめぴりか	74.6	531	61.7	7%	30,467	
R03	ななつぼし	74.8	539	63.6	4%	32,891	110
	ゆめぴりか	72.7	576	65.0	4%	35,900	

～JA全域幼形期・稈実調査より(中苗平均)～

注1 作況指数は、農家使用節目ベース(1.9mm以上)

注2 R06作況指数は、R06/10/25現在公表値

理事会報告

令和6年10月21日(月)に総合営農センターで第10回理事会が開催され、次の事項について報告がされました。



1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 9月末財務報告について
3. 組合員の異動について
4. 固定資産の取得、処分について
5. 第2四半期定期監査の結果について
6. 役員組合員訪問の意見集約について
7. 現金及び棚卸資産の管理に係わるJA自主点検の取組結果について
8. 経営所得安定対策交付申請の日程変更に伴う労務管理の改善について
9. 農産物の集荷状況について
10. 米施設概算払いについて
11. 家畜共進会・枝肉共励会の結果報告について
12. 令和6年度北海道報徳善行賞受賞候補者の推薦について
●推薦支所…穂別支所【令和5年度 藤岡孫一 氏】
13. 11月1日からの営業時間の変更について



令和6年11月7日(木)に総合営農センターで第11回理事会が開催され、次の事項について報告、承認がされました。



1. 一般報告と当面する諸行事について



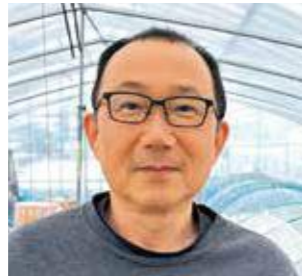
- 議案第1号 穂別地区理事の補欠選任について
- 議案第2号 業務執行理事の互選について
- 議案第3号 代表理事の選任について
- 議案第4号 地区担当理事・代行職の選任について
- 議案第5号 管理委員会、生産委員会、経営指導委員会の選任について



令和6年度 総集編



R6. 2月号掲載
つちや しんご
土屋 真吾さん 安平町安平



R6. 3月号掲載
いけだ こういち
池田 浩一さん 安平町若草



R6. 4月号掲載
みやうち いつき
宮内 逸己さん 安平町追分旭



R6. 5月号掲載
あらい しんいち
荒井 慎一さん 厚真町豊川



R6. 6月号掲載
いちしま あきら
市島 聡さん 厚真町上野



R6. 7月号掲載
かながわ こうた
金川 航大さん 安平町早来富岡



R6. 8月号掲載
ふじもと たかのり
藤本 貴則さん 厚真町豊沢



R6. 9月号掲載
くろき まさてる
黒木 正輝さん 安平町追分向陽



R6. 10月号掲載
やまだ こうじ
山田 耕司さん 厚真町浜厚真



R6. 11月号掲載
たしろ こうすけ
田代 孝輔さん むかわ町穂別安住

令和6年2月号から11月号までの燦々でご紹介させていただいた、これからの農業を背負う若き農業者の皆様です。



年末・年始の営業時間一覧表(1月~3月土曜日休業)

令和6年~7年

令和6年10月16日現在

支所名 月 日	一般業務		金融業務		ATM		生産資材		農機		スタンド		Aコープ		生乳検査室 死亡牛処理	
	厚真・苫小牧 早来・追分 種別	白老	厚真・苫小牧 早来・種別	白老 追分	厚真・上厚真 早来・種別	追分	ホクレンショップ 苫小牧/沼ノ端 しらかば	厚真・早来 追分・種別	白老	厚真 種別	厚真 種別	早来 追分	上厚真	厚真店		コンビニ 提携 ATM
12月27日	金	9:00~17:00	9:00~17:00 (12:30~13:30休)	9:00~16:00	9:00~16:00 (12:30~13:30休)	9:00~18:00	9:00~18:00	9:00~21:00 しらかば 9:00~20:00	9:00~17:00	9:00~16:00 (12:30~13:30休)	9:00~17:00	8:00~18:00	8:00~18:00	8:00~18:00	8:00~18:00	8:00~22:00
12月28日	土	9:00~12:00	休業	休業	休業	9:00~12:30	休業	9:00~17:00 しらかば 9:00~17:00	9:00~12:00	休業	9:00~12:00	8:00~17:30	8:00~13:00	8:00~17:00	9:00~18:00	8:00~21:00
12月29日	日	休業	休業	休業	休業	休業	休業	9:00~17:00 しらかば 9:00~17:00	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	8:00~21:00
12月30日	月	9:00~17:00	9:00~17:00 (12:30~13:30休)	9:00~16:00	9:00~16:00 (12:30~13:30休)	9:00~18:00	9:00~18:00	9:00~21:00 しらかば 9:00~20:00	9:00~17:00	9:00~16:00 (12:30~13:30休)	9:00~17:00	8:00~18:00	8:00~18:00	8:00~18:00	9:00~18:00	8:00~22:00
12月31日	火	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	8:00~21:00
1月1日	水	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	8:00~21:00
1月2日	木	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	8:00~21:00
1月3日	金	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	8:00~21:00
1月4日	土	休業	休業	休業	休業	休業	休業	9:00~17:00 しらかば 9:00~17:00	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	8:00~21:00
1月5日	日	休業	休業	休業	休業	休業	休業	9:00~17:00 しらかば 9:00~17:00	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	8:00~21:00
1月6日	月	9:00~17:00	9:00~17:00 (12:30~13:30休)	9:00~16:00	9:00~16:00 (12:30~13:30休)	9:00~18:00	9:00~18:00	9:00~21:00 しらかば 9:00~20:00	9:00~17:00	9:00~16:00 (12:30~13:30休)	9:00~17:00	8:00~18:00	8:00~18:00	8:00~18:00	9:00~18:00	8:00~22:00

※コンビニ提携ATM:平日8:45~18:00および土曜9:00~14:00のご利用は110円、それ以外取扱時間のご利用は220円の手数料がかかります。
※各スタンド、Aコープについては、12月31日(火)は休業とさせていただきます。なお、Aコープの「おせち」引き渡しは、12月31日(火)10:00~11:00に行います。
※1月~3月の毎週土曜日は本支所の金融、共済、生産資材、農機具センター、一般事務の営業を休止とします。(給油所、Aコープ、ATMは営業)
※Aコープ・スタンドの1月~3月の祝日は閉店とします。

FAX:
JAコネク
別途通知
させて
頂きます

営農貯金の金利が改訂しました

●特別金利 0.175%

「新規投資(土地・機械)や年末クミカン不足のときに払い戻しが可能」

利用要項 販売実績のある正組合員限定

お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年
11/3	厚真町	藤澤千枝子さん	95
11/8	厚真町	畑嶋 みつさん	92
11/12	むかわ町	宮崎 あいさん	98

ホクレン北海道 黒毛和種市場 広域農協支所別取引成績(11月)

令和6年11月13日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白老	去勢	30	581,767	1.157	1,717
	雌	22	478,591	1.063	1,470
苫小牧	去勢				
	雌				
早来	去勢	30	574,933	1.130	1,671
	雌	20	462,250	1.005	1,468
厚真	去勢	14	618,357	1.144	1,821
	雌	18	475,000	1.046	1,439
穂別	去勢	27	577,222	1.129	1,716
	雌	26	468,885	1.078	1,450
追分	去勢	6	584,500	1.152	1,614
	雌	4	519,750	1.067	1,479
とまこまい 広域	去勢	107	583,645	1.140	1,711
	雌	90	473,267	1.051	1,458
胆振管内	去勢	202	587,050	1.146	1,723
	雌	146	465,342	1.040	1,449
市場計	去勢	866	555,595	1.131	1,656
	雌	633	446,501	1.027	1,411



JA日誌

2024 12月	2025 1月	2025 2月
16日(月) 17日(火) 女性役員及び参与研修(札幌)、第12回企画会議(日胎会館)	1日(水) 元日	17日(金) ホクレン乳牛市場、日胎組合長会議・作目別対策委員会
18日(水) 第1回フロンティア塾	2日(木) 2日(木)	18日(土) 酪農全体説明会(予定)、いぶり農業フェア(イオンモール苫小牧)~19日
19日(木) 第8回監事会、第13回理事会、厚真農産協議会	3日(金) 3日(金)	19日(日) 広域女性部第3回役員会及び常勤との意見交換会
20日(金) 21日(土) 22日(日)	4日(土) 4日(土)	20日(月) 第2回フロンティア塾
21日(土) 22日(日) 23日(月)	5日(日) 5日(日)	21日(火) 第1回地区担当理事会
22日(日) 23日(月) 4地区常参会(札幌)	6日(月) 6日(月)	22日(水) 胆振農政懇談会(苫小牧)
24日(火) 25日(水) 26日(木)	7日(火) 7日(火)	23日(木) 第17回農産総合研修会(厚真福祉センター)
25日(水) 26日(木) 27日(金)	8日(水) 8日(水)	24日(金) 日胎地区米麦改良協会道外研修(~11日:愛知)、監事協議会研修会Web
26日(木) 27日(金) 28日(土)	9日(木) 9日(木)	25日(土) あつま国際雪上三本引大会
27日(金) 28日(土) 29日(日)	10日(金) 10日(金)	26日(日) 第13回企画会議
28日(土) 29日(日) 30日(月)	11日(土) 11日(土)	27日(月) 第5回経営指導委員会、第14回理事会
29日(日) 30日(月) 31日(火)	12日(日) 12日(日)	28日(火) 穂別地区地域再生勉強会、第15回経営会議
30日(月) 31日(火) 大晦日	13日(月) 13日(月)	
	14日(火) 14日(火)	
	15日(水) 15日(水)	
	16日(木) 16日(木)	